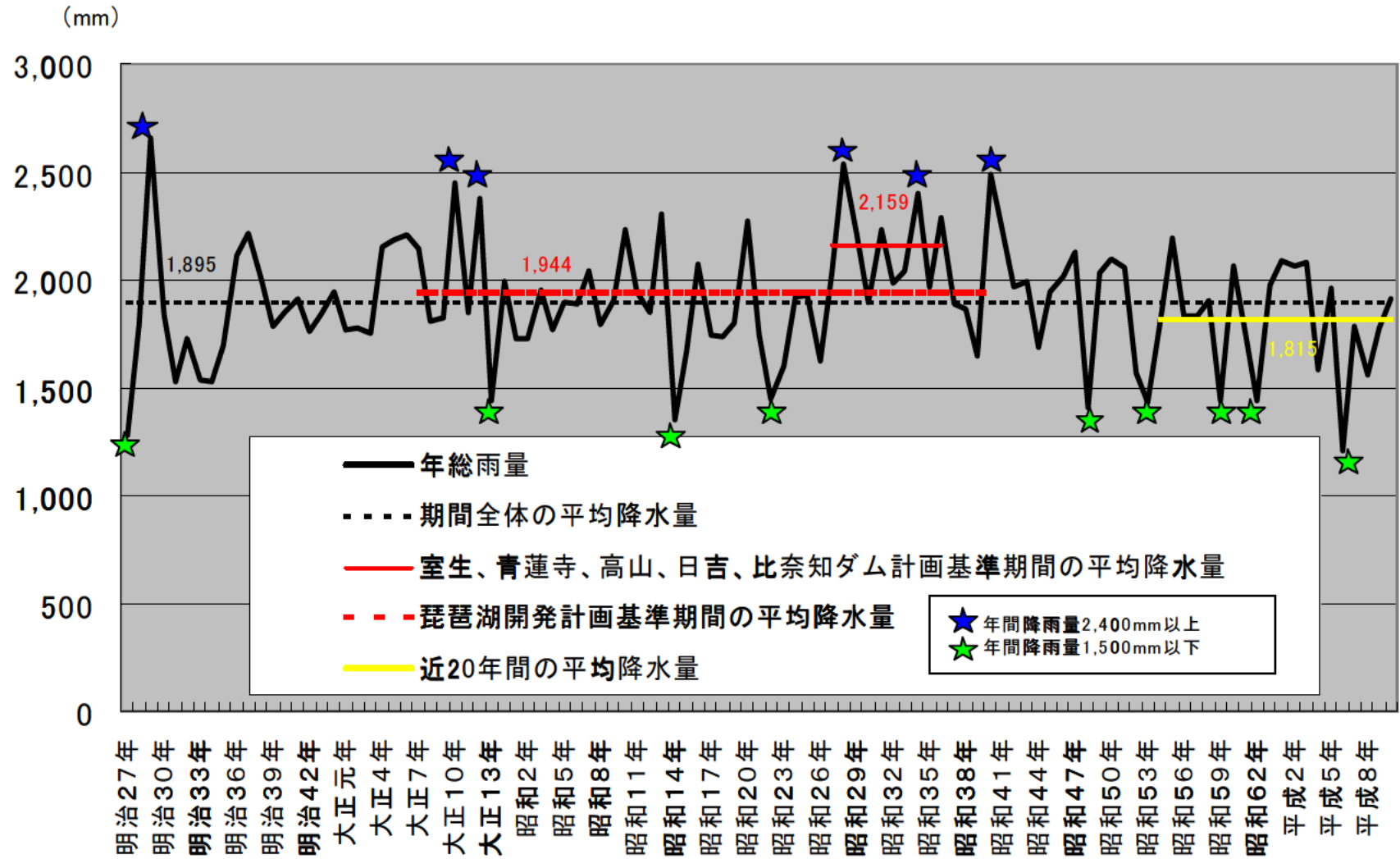


第4章 現在の施設の 水供給(確保)能力

第1節 降雨状況

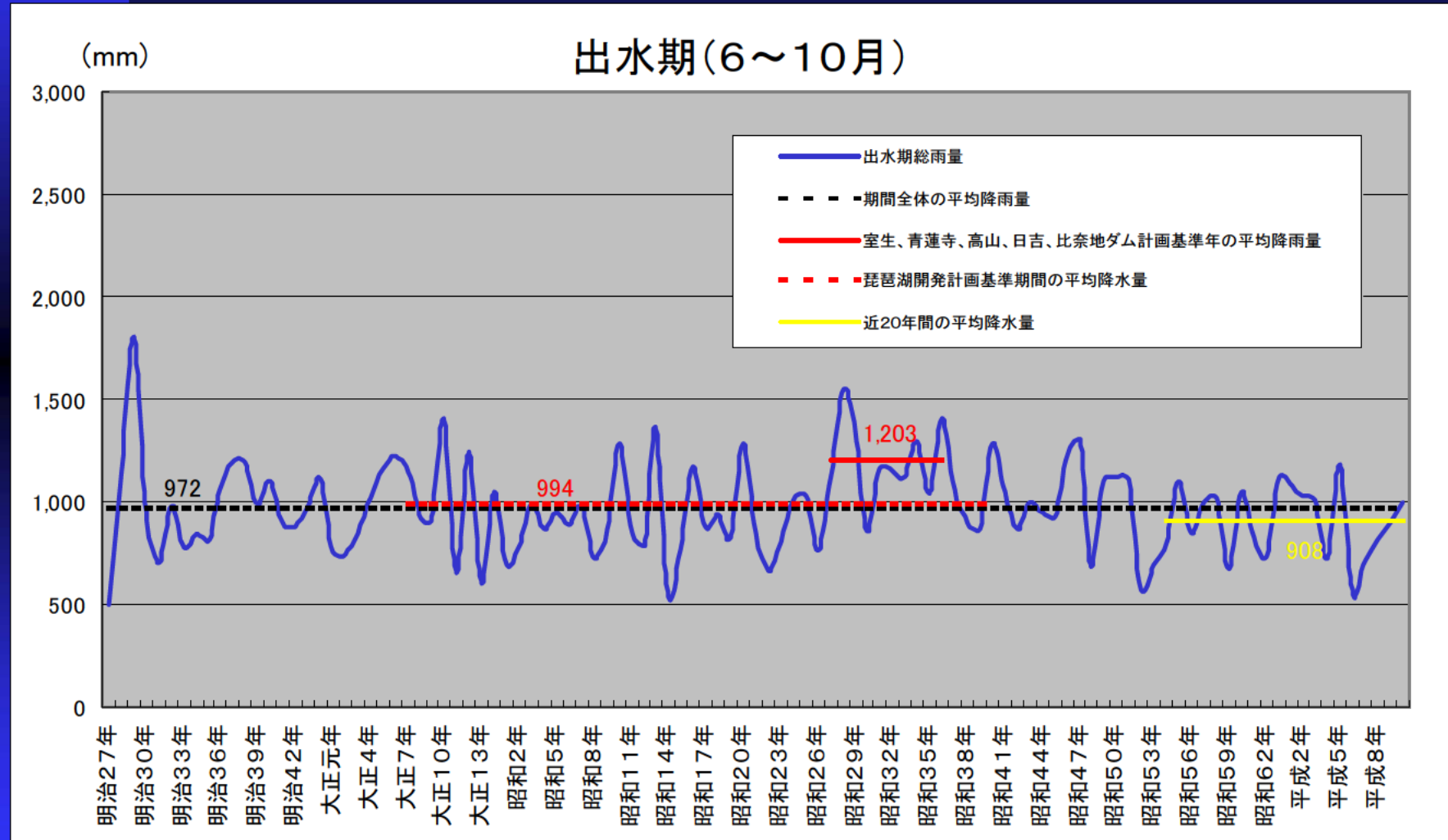
1. 年降水量の変遷
2. 季別降水量の変遷

1. 年降水量の変遷



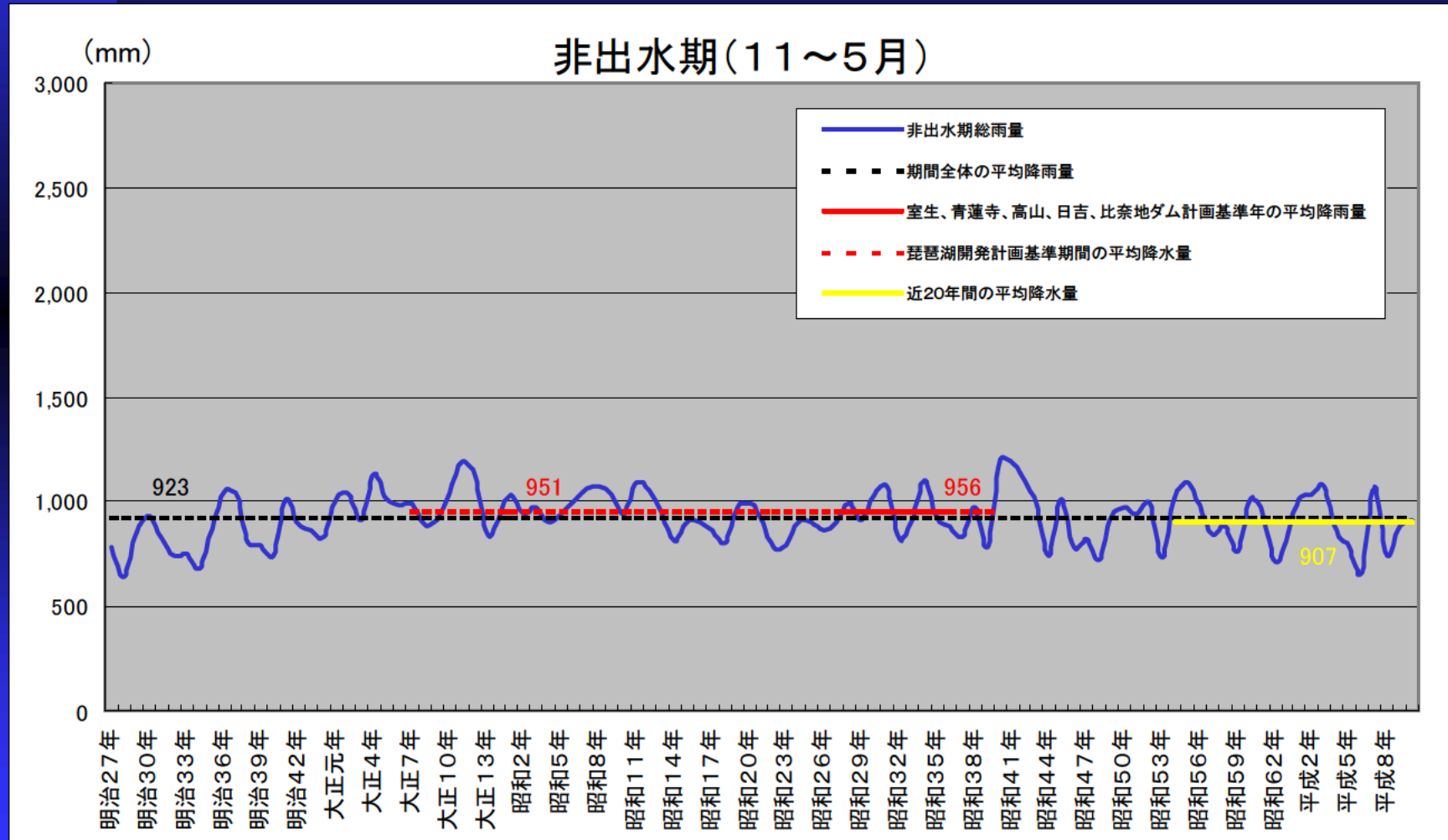
2. 季別降水量の変遷

2.1 出水期



2. 季別降水量の変遷

2.2 非出水期



第2節 水供給(確保)能力

1. 計算条件
2. 現行施設での確保水量(計画値)
3. 安定的に確保できる量(都市用水)
4. 近年30年間の確保可能量
5. 年間降雨量と確保可能量の関係
6. 取水実績と確保可能量の関係

1. 計算条件

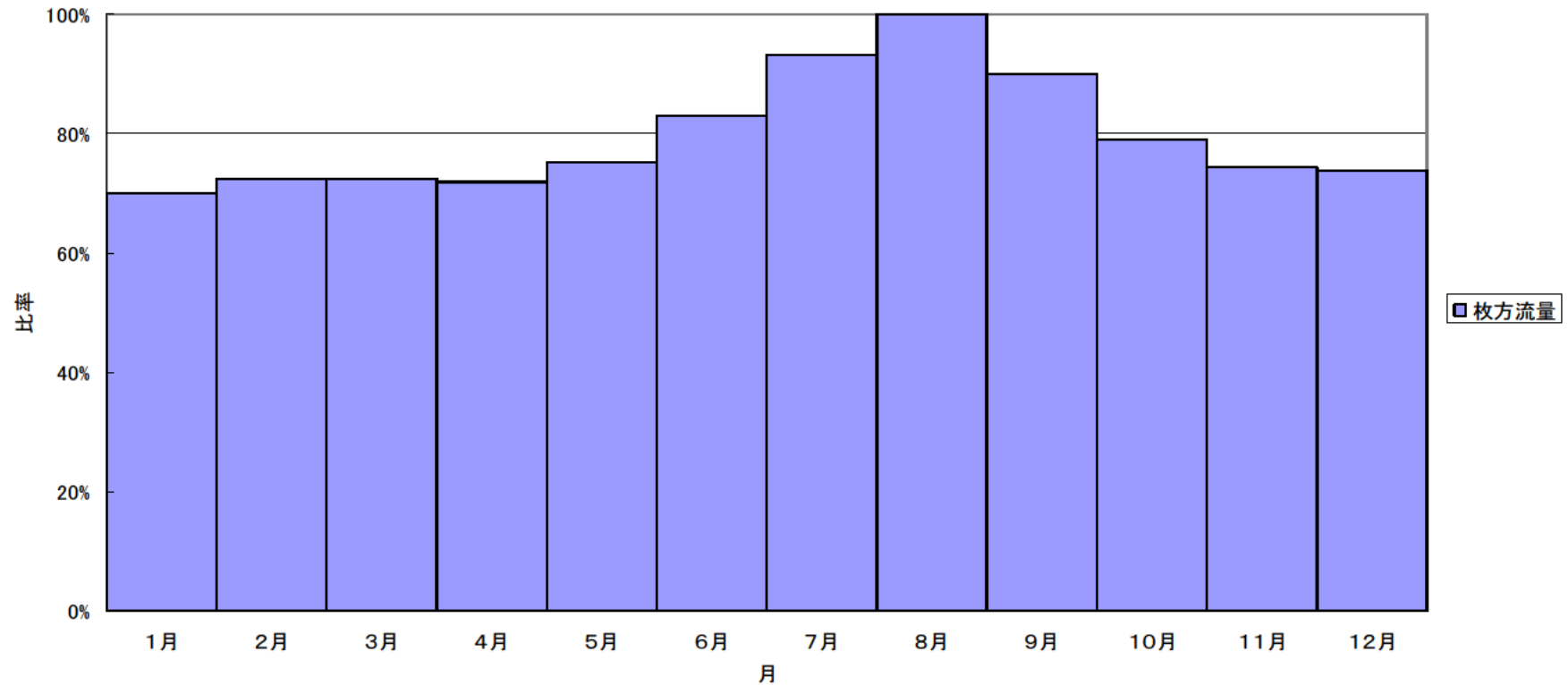
- 琵琶湖総合開発後の琵琶湖運用を前提
- ダム等の施設は、現時点で完成しているもの
- 当時の気象条件で、安定的に確保(供給)できる水量を算定
- 計算は、昭和44年～平成10年の30年間
- 淀川下流の都市用水(上水+工水)の確保量を算定
- 維持流量は、先取り(確実に確保)
- 農業用水は、都市用水と同等の扱い

1. 計算条件

年間の水需給パターン(枚方)

(m³/s)

淀川本川の月別水利用パターン



2. 現行施設での確保水量(計画値)

淀川下流域の都市用水(上水+工水)の確保水量は、
 $95.548\text{m}^3/\text{s}$

3. 安定的に確保できる量(都市用水)

最小は、昭和53~54年で、 $64.412\text{m}^3/\text{s}$

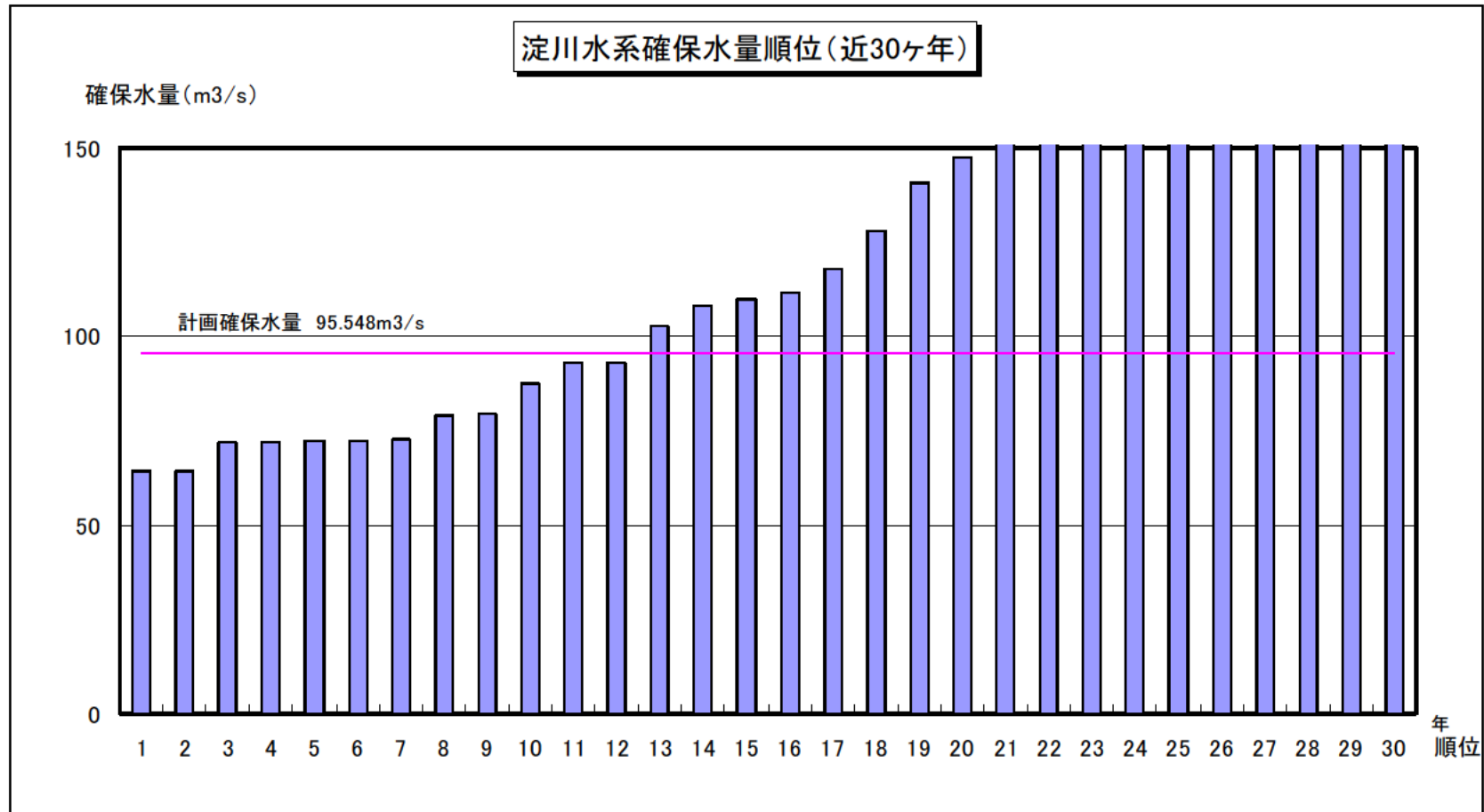
次は、昭和61~62年で、 $71.679\text{m}^3/\text{s}$

昭和59~60年で、 $72.278\text{m}^3/\text{s}$

平成 6~ 7年で、 $72.657\text{m}^3/\text{s}$

30年間の内、12年間は計画確保水量が確保できない状況

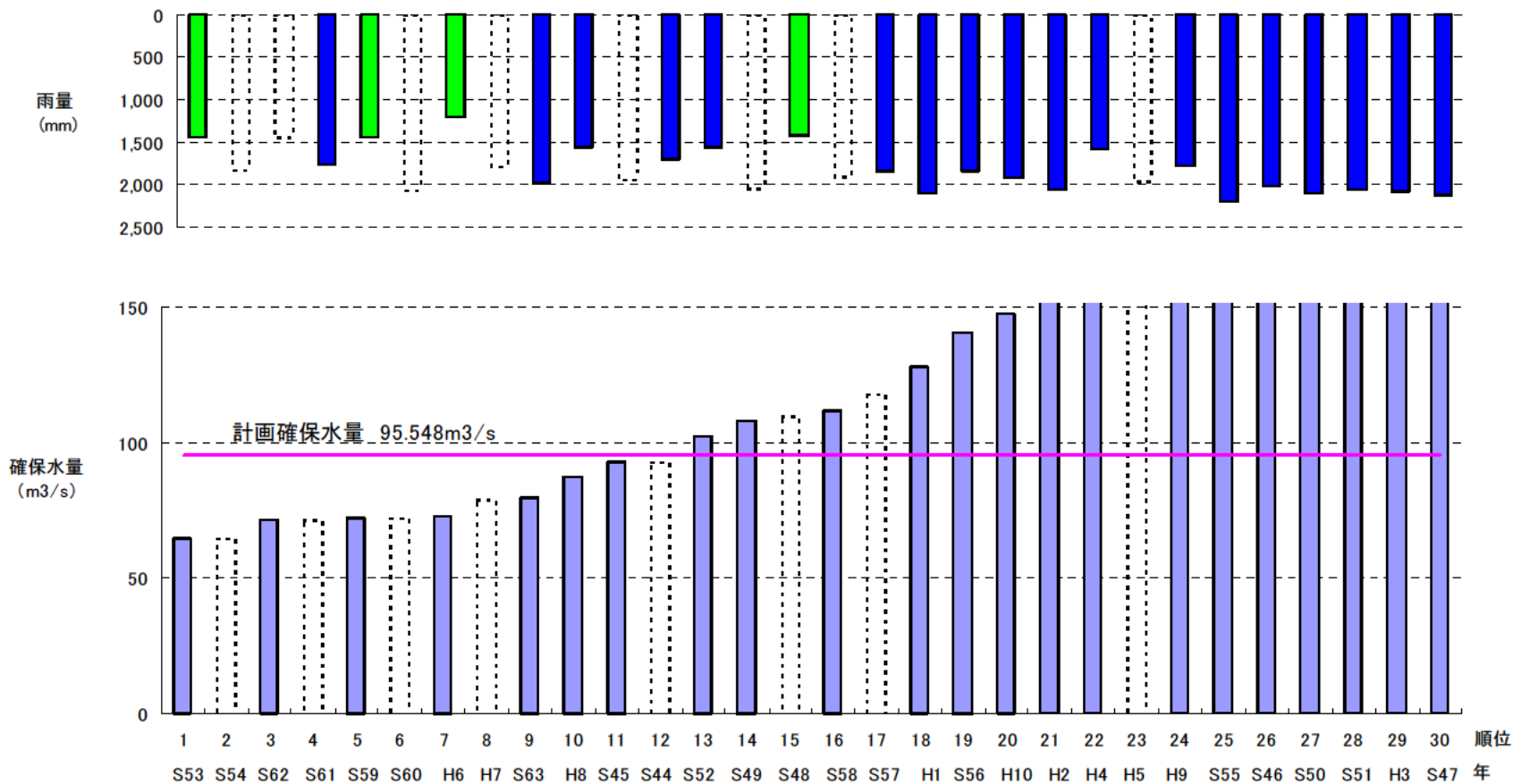
4. 近年30年間の確保可能量



淀川水系現行施設の確保可能量順位(昭和44年~平成10年)

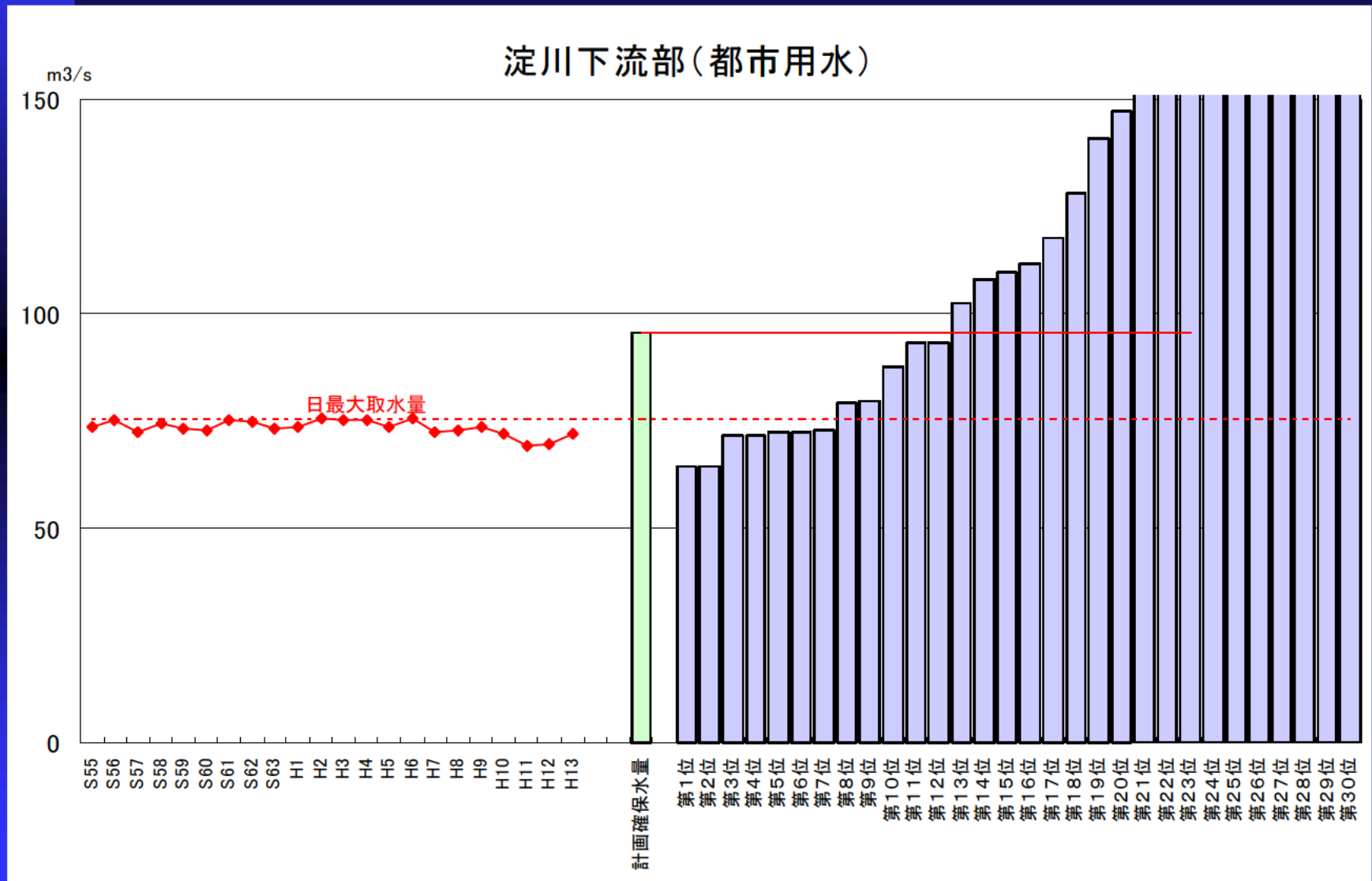
5. 年間降雨量と確保可能量の関係

淀川水系確保水量順位(近30ヶ年)【年間総雨量】



※ S53-54、S61-62、S59-60、H6-7、S44-45、S48-49、S57-58、H4-5については、翌年にまたがる湯水

6. 取水実績と確保可能量の関係



6. 取水実績と確保可能量の関係

大阪府営水道

